

令和5年度 経済産業省資源エネルギー庁 受託事業

# 緊急時対応指揮研修

(ERC : Emergency Response Command 研修)

(原子力災害時の広域活動体制をリードする人材の育成研修)



受託・研修実施機関 (一財)消防防災科学センター

問い合わせ先

一般財団法人 消防防災科学センター

研究開発部 危機管理研修 ERC 研修担当 一町田

電話 0422-24-7803 FAX 0422-46-9940

e-mail 部署 kikikanri@isad.or.jp

個人 itchoda@isad.or.jp

センターHP <https://www.isad.or.jp>

(2023.6)

## ごあいさつ

一般財団法人消防防災科学センターは、消防防災に関する調査及び研究開発、教育及び研修並びに情報の収集分析及び提供等を行い、地域社会の安全安心に寄与することを目的に46年にわたって消防防災に関する調査研究機関として発展してまいりました。総務省消防庁、各地方公共団体をはじめ、関係各位の長期間にわたるご指導、ご支援に厚く御礼申し上げます。



理事長 荒川 敦

さて、当センターでは、令和元年度から経済産業省資源エネルギー庁が実施している「原子力産業基盤強化事業（安全性向上を担う人材の育成事業）」を4年間にわたり受託し、原子力発電所及びその関連企業の方々並びに原子力施設が立地する地域の行政に携わる方々（消防職員を含む。）を対象に、「緊急時対応指揮研修（ERC:Emergency Response Command 研修）」を開催してまいりました。

この研修は、原子力発電所のオンサイトとオフサイト双方の方々を受講する我が国でも例を見ない研修です。講師は長年にわたって消防本部の幹部として災害活動の指揮を執られた方々が担当し、シビアアクシデントに対応するための指揮要領や情報の処理要領等について指導します。

今年度は、宮城県石巻市、茨城県東海村、新潟県柏崎市、佐賀県唐津市の会場で2日間の研修を開催いたします。

また、今年度からは、全国の方々がこの研修を受講できるよう、資源エネルギー庁の受託事業と同じ内容の研修を当センターの自主事業（以下、「ISAD 研修」といいます。「ISAD」は当センターの略称です。）として開催する予定です。

両研修に対しまして、関係各機関の皆様の積極的な受講をお待ちしております。

## 目 次

- 1 ERC 研修の概要
- 2 創設の経緯
- 3 研修カリキュラムと講師について
  - (1) 研修カリキュラム
  - (2) 講師紹介
- 4 実績
  - (1) 過去4年間の受講実績
  - (2) 令和4年度アンケート結果（各カリキュラムの認識度）
  - (3) 過去4年間の受講生のコメント（抜粋）
- 5 本事業の今後について～当センターの自主事業「ISAD 研修」を開催します～

## 1 ERC 研修の概要

この研修は「緊急時対応指揮 (Emergency Response Command) 研修」といいます。(以下「ERC 研修」と省略します。)

原子力の過酷災害(シビアアクシデント)に対応するリーダーを育成するためのカリキュラムで構成されており、長年にわたって過酷災害に対応してきた消防のノウハウを皆様の業務に活かす研修です。

受講対象者は、原子力事業者とその関連企業等の従事者及びメーカー社員の方々並びに緊急時防護措置を準備する区域の自治体の職員(消防職員を含みます。)及び交通機関職員で、危機管理時に実務的なリーダーとなる方です。

原子力施設における過酷災害発生時には、それぞれのサイトで活動する法的根拠も活動環境も異なります。これらに対応するためのテクニカルスキルは職場ごとにマニュアル化され、それぞれに訓練も実施されています。これらはまさに OJT で学ぶ必要条件です。

これに対して、災害発生時に組織を統括することや安全管理の手法、また情報の共有方法や指揮者の意思決定などのノンテクニカルスキルと呼ばれる分野は、マニュアル化に馴染まず、実戦的な訓練を企画することが難しい十分条件です。

「消防」は、このノンテクニカルスキルを日々の訓練や災害活動で磨いているプロフェッショナル集団です。消防機関が長年にわたって培った訓練技法を活用して出来上がったのが ERC 研修です。

この研修を受講することで、オンサイトとオフサイトの担当者がより高度な危機管理能力を体得するとともに、その能力を発揮できる共通基盤を構築することができます。

なお、資源エネルギー庁の受託事業で開催する ERC 研修は、**受講料は無料**です。

## 2 創設の経緯

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故は記憶に新しいことと思います。このとき、東京消防庁はハイパーレスキュー部隊を中心に現地に消防部隊を派遣し、原子炉への注水活動を行いました。

この活動は、危機的な状況下にも関わらず、的確な準備と果敢な消防活動によりミッションが達成できたものであり、当時、消防界だけでなく、世界からも高く評価されました。

平成 26 年、一般社団法人原子力安全推進協会(以下「JANSI」といいます。)からの依頼により、この活動を可能とした消防が持つ危機対応力を習得するための「危機管理研修」を消防防災科学センター(以下「当センター」といいます。)が受託し、これまで9年間計17回の研修を実施してきました。受講者数は470名を超えています。

「危機管理研修」は、原子力発電所の幹部職員に限定した研修ですが、この研修のノウハウを活用し、令和元年から資源エネルギー庁の委託事業として、ERC 研修が始まりました。

原子力施設が立地する区域は、施設のあるオンサイトのほか、5 km圏内の PAZ、さらには 30 km 圏内の UPZ に区分されます。当センターがこれまで実施してきた JANSI の危機管理研修はオンサイトの発電所職員に限定されていました。そこで、資源エネルギー庁の受託事業を活用し、住民防

護や被災者支援を行うオフサイトの行政職員（消防職員を含む。）と、事故の収束活動を行うオンサイトの原子力事業者の双方が参加する我が国では他に例がない研修として開催しています。

ERC 研修は、これまでの4年間、青森県と福井県で各6回、静岡県、島根県で各2回開催され、既に230名以上の方が受講されています。

### 3 研修カリキュラムと講師について

#### (1) 実施日程・募集人員

- a 佐賀県唐津市会場（唐津市市民交流センター）  
・令和5年10月18日(水)～19日(木)
- b 宮城県石巻市会場（石巻地区広域行政組合消防本部庁舎）  
・令和5年10月31日(火)～11月1日(水)
- c 新潟県柏崎市会場（柏崎市消防本部庁舎）  
・令和5年11月9日(木)～10日(金)
- d 茨城県東海村会場（東海村産業・情報プラザ）  
・令和5年12月14日(木)～15日(金)

募集人員：各会場とも24名です。

#### (2) 研修カリキュラム

##### 【1日目】

| カリキュラム名         | 概要                                                                 |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------|
| 講義「さらなる安全をめざして」 | 研修の冒頭に、本研修の主旨を詳細に伝えます。                                             |
| 演習「状況把握トレーニング」  | パズルワーク等を通じて、状況を把握すること及び収集した情報を伝えることの難しさを体得します。                     |
| 講義「情報マネジメント」    | 情報の高度化(トリアージ、カテゴリー分類、見える化)の必要性とその手法について理解します。                      |
| 同時多発災害に学ぶ部隊統括   | 大規模地震発生時の消防署の幹部役として、同時多発する災害に対応することで、部隊を統括することの困難さと情報処理の重要性を体験します。 |

##### 【2日目】

| カリキュラム名                                               | 概要                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 演習<br>「特殊災害対応トレーニング」<br>1) 基礎講座<br>2) 基本訓練<br>3) 実戦訓練 | 消防が行う特殊災害対応(NBC 災害対応)と原子力災害には多くの共通点があります。ここでは、化学工場で発生した災害に消防部隊として対応することで、部隊の統括要領、情報の処理要領、さらには安全管理手法についても学ぶことができます。 |
| 「全体の振り返り」                                             | 2日間の研修を個人で振り返り、その後、受講生間で共有します。                                                                                     |

### (3) 講師紹介

ERC 研修の講師には、福島第一原子力発電所の災害に対して、現地で東京消防庁のハイパーレスキュー隊を東京都総隊長として指揮した佐藤康雄氏(当時、東京消防庁警防部長)をはじめ、以下の方々が、カリキュラムの制作から研修の講師、指導にあたります。

佐藤康雄 元東京消防庁警防部長  
永井逸朗 元東京消防庁品川消防署長  
飯田 稔 元東京消防庁立川消防署長  
内山 徹 元東京消防庁八王子消防署長  
関 政彦 元東京消防庁防災部長

## 4 実績

### (1) 過去4年間の受講実績

これまでの4年間、福井会場、青森会場、静岡会場および島根会場での受講実績数を業態別に整理した表です。

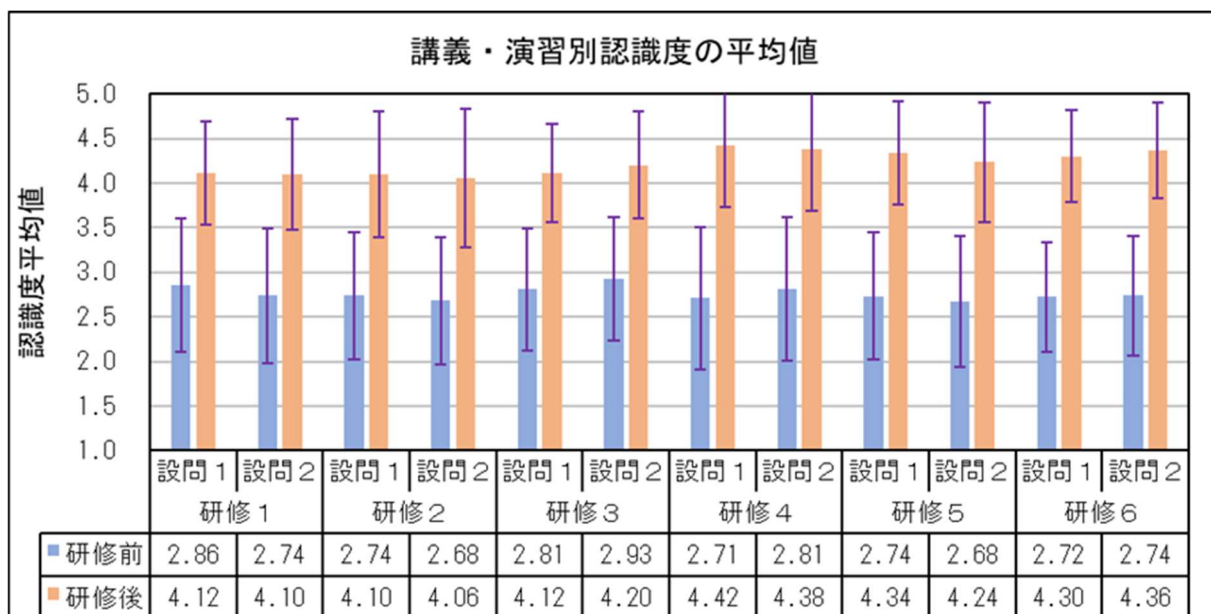
|                       |                 |      | 令和元<br>年度 | 令和2<br>年度 | 令和3<br>年度 | 令和4<br>年度 | 合計(人) |     | 受講人数<br>比率 | 受講<br>団体数 |
|-----------------------|-----------------|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|-----|------------|-----------|
| 業<br>態<br>別<br>区<br>分 | 電力会社等<br>原子力事業者 | 福井会場 | 11        | 5         | 7         | —         | 23    | 62  | 26.5%      | 13        |
|                       |                 | 青森会場 | 7         | 4         | 7         | —         | 18    |     |            |           |
|                       |                 | 静岡会場 | —         | —         | —         | 11        | 11    |     |            |           |
|                       |                 | 島根会場 | —         | —         | —         | 10        | 10    |     |            |           |
|                       | 原子力事業者<br>関連企業  | 福井会場 | 2         | 3         | 3         | —         | 8     | 38  | 16.2%      | 11        |
|                       |                 | 青森会場 | 16        | 4         | 8         | —         | 28    |     |            |           |
|                       |                 | 静岡会場 | —         | —         | —         | 2         | 2     |     |            |           |
|                       |                 | 島根会場 | —         | —         | —         | 0         | 0     |     |            |           |
|                       | 原子力事業者<br>協力企業  | 福井会場 | 1         | 0         | 2         | —         | 3     | 9   | 3.8%       | 5         |
|                       |                 | 青森会場 | 5         | 0         | 0         | —         | 5     |     |            |           |
|                       |                 | 静岡会場 | —         | —         | —         | 1         | 1     |     |            |           |
|                       |                 | 島根会場 | —         | —         | —         | 0         | 0     |     |            |           |
|                       | 原子力設備<br>機器メーカー | 福井会場 | 1         | 0         | 0         | —         | 1     | 3   | 1.3%       | 2         |
|                       |                 | 青森会場 | 2         | 0         | 0         | —         | 2     |     |            |           |
|                       |                 | 静岡会場 | —         | —         | —         | 0         | 0     |     |            |           |
|                       |                 | 島根会場 | —         | —         | —         | 0         | 0     |     |            |           |
|                       | 自治体行政<br>職員     | 福井会場 | 2         | 4         | 1         | —         | 7     | 18  | 7.7%       | 12        |
|                       |                 | 青森会場 | 0         | 1         | 3         | —         | 4     |     |            |           |
|                       |                 | 静岡会場 | —         | —         | —         | 7         | 7     |     |            |           |
|                       |                 | 島根会場 | —         | —         | —         | 0         | 0     |     |            |           |
|                       | 消防機関<br>職員      | 福井会場 | 23        | 13        | 18        | —         | 54    | 104 | 44.4%      | 25        |
|                       |                 | 青森会場 | 7         | 2         | 3         | —         | 12    |     |            |           |
|                       |                 | 静岡会場 | —         | —         | —         | 15        | 15    |     |            |           |
|                       |                 | 島根会場 | —         | —         | —         | 23        | 23    |     |            |           |
|                       | 合 計             | 福井会場 | 40        | 25        | 31        | —         | 96    | 234 | 100.0%     | 68        |
|                       |                 | 青森会場 | 37        | 11        | 21        | —         | 69    |     |            |           |
|                       |                 | 静岡会場 | —         | —         | —         | 36        | 36    |     |            |           |
|                       |                 | 島根会場 | —         | —         | —         | 33        | 33    |     |            |           |
|                       |                 | 合計   | 77        | 36        | 52        | 69        | 234   | 234 | 100.0%     | 68        |

## (2) 令和4年度アンケート結果（各カリキュラム別認識度）

研修の受講前と受講後の各カリキュラムの認識度についてアンケートを取ります。

これは、令和4年度に実施した静岡会場と島根会場合計の結果です。

何れのカリキュラムにおいても、研修受講の前後で大きな認識度の違いが表れています。



|      | 講義・演習<br>カリキュラム          | 設問内容                                              |
|------|--------------------------|---------------------------------------------------|
| 研修 1 | さらなる安全を<br>めざして          | 設問 1 想定外災害への対応要領の考え方について                          |
|      |                          | 設問 2 過酷状況下で組織を動かす基本について                           |
| 研修 2 | 状況把握トレー<br>ニング           | 設問 1 リーダーとしてチーム全体を統率するために求めら<br>れるコミュニケーション能力について |
|      |                          | 設問 2 効率的な情報収集とその内容を正確に伝えるための<br>方法について            |
| 研修 3 | 情報マネジメン<br>ト             | 設問 1 情報マネジメントサイクルについて                             |
|      |                          | 設問 2 情報のトリアージについて                                 |
| 研修 4 | 同時多発災害に<br>学ぶ部隊統括        | 設問 1 情報処理の重要性と見える化の必要性について                        |
|      |                          | 設問 2 効率的な部隊運用とリソース管理の重要性について                      |
| 研修 5 | 特殊災害対応ト<br>レーニング(全<br>般) | 設問 1 ゾーン管理の具体的方策について                              |
|      |                          | 設問 2 安全管理(ゾーン、防護、除染)の指揮の具体的方<br>策について             |
| 研修 6 | 研修の総括                    | 設問 1 過酷災害に対応するリーダーとしての危機管理の視<br>点について             |
|      |                          | 設問 2 リーダーとしてのチームビルディングの在り方につ<br>いて                |

### (3) 過去4年間の受講生のコメント（抜粋）

#### 1) 電力会社等原子力事業者の職員・社員

|    | 研修全般についての意見・感想・要望等                                                                                                                                                                                                     |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | シナリオレス訓練の重要性を原子力業界にアピールして、広めていくべき。現状、形だけの訓練になってしまいがち。そのために、年2回ぐらい同地域での開催を御願したい。                                                                                                                                        |
| 2  | 参加者は、原子力関係企業、消防であったが地域行政の方など色々な方と進められると良いと感じた。講師の方々は熱心に指導頂き大変分かりやすかったし、講師の熱意が受講者により影響を与えていたと感じた。原子力防災を担う者として、事業者のみではなく消防、行政他と日頃からこのような訓練をしなければ我々は一步先には進めないことを感じられる非常に良い研修内容だった。我々安全を守る者がこのような研修で多くの関わりを持てる機会が増えることを望む。 |
| 3  | 短い時間の中でとても多くの内容が含まれており、様々なことを学ぶことが出来ました。今後の業務で行かせるよう頑張っていきたいと思います。                                                                                                                                                     |
| 4  | 今回の訓練で得た知識と経験を今後の訓練に取り入れ、事故対応能力の向上に努めたいと思います。                                                                                                                                                                          |
| 5  | 現在の業務においては、緊急時のような瞬時の対応業務はほとんどないため、今回の研修は非常に参考になった。                                                                                                                                                                    |
| 6  | こういった研修に参加しているメンバーが、これまでも持帰り自分達の訓練に取り入れており、会社としても役立っている。                                                                                                                                                               |
| 7  | 原子力災害と消防災害は、対応が近いことがわかった。                                                                                                                                                                                              |
| 8  | 消防署による指導では、消火活動（自衛消防隊）が中心であったが、原子力防災の訓練評価や講師をいただけると参考になると感じた。                                                                                                                                                          |
| 9  | 原子力発電所の防災能力向上を担当している立場として、本研修の内容、やり方は非常に参考になりました。                                                                                                                                                                      |
| 10 | 講師の皆様の実経験を交えたわかりやすい説明や立場の異なる研修生との演習など飽きがない研修内容でした。                                                                                                                                                                     |
| 11 | 発電所の管理者層に多く受けてもらいたい研修。                                                                                                                                                                                                 |
| 12 | 短い期間でしたが、得たものは非常に多いと思われしますので、また開催していただきたい。                                                                                                                                                                             |
| 13 | 出来れば全国の原子力発電所の立地箇所で行って頂ければ、地元の消防、自治体、事業者のつながりもできるのではと思います。                                                                                                                                                             |
| 14 | 上司、部下を問わず、機会があれば本研修を受講するよう紹介させていただきます。                                                                                                                                                                                 |
| 15 | とても有意義な研修だったので、来年度も、派遣したい。                                                                                                                                                                                             |
| 16 | 他の機関の方々との合同の研修であり、新たな発見があった。                                                                                                                                                                                           |
| 17 | 発電所での訓練を行っているが、電話の向こう側の動きがわかって良かった。                                                                                                                                                                                    |
| 18 | 組織の安全文化が基盤になることは、原子力も消防も同じであり、組織全体を底上げするためには、必要な活動であることを再認識しました。                                                                                                                                                       |
| 19 | 限られた時間の中で、決断する経験は重要であり、JANSI 危機管理研修と合わせ、多くの方に経験してほしいと思います。（指揮者クラスだけでなく、様々なクラス研修があってもよいと思います）                                                                                                                           |
| 20 | 研修の内容は、ライフライン企業にとどまらず、あらゆる業界にも必要とされるスキルだと思います。                                                                                                                                                                         |

(つづく)



1) 電力会社等原子力事業者の職員・社員

|     | 研修全般についての意見・感想・要望等                                                                                                                               |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 1 | 主に消防の観点での内容だったが、視野を広げる意味で、良い研修だと感じた。共通する点もあり、特に情報の分析、収集については考えさせられる点だった。                                                                         |
| 2 2 | 限られた時間の中で、スピード（事象進展）が早い中で判断しなければならないので、精神的に疲れた。                                                                                                  |
| 2 3 | 特殊災害対応トレーニングは同じシナリオ？と疑問を持ちましたが、繰り返し行うことの意義を実感しました。発電所の災害対応訓練にも展開できる事項だと感じています（役割分担の変更、シナリオのスピード変化も要）（訓練事務局として）訓練等で公設消防と連携する際の参考となる知識を得ることができました。 |
| 2 4 | 電力関係者として、災害に対しては主体的な位置付けではないため、このような訓練を経験できたことはとても参考になった。                                                                                        |
| 2 5 | 自治体の方や消防の方などまったく接点のない方と同じ訓練を一緒に行うことで、チームワークが深まることを体感できたことは良かった。                                                                                  |
| 2 6 | 消防の手法ということで、普段は考えることもない状況での訓練だったため、全てを理解することは難しかった。                                                                                              |

2) 原子力事業者の関連企業社員

|     | 研修全般についての意見・感想・要望等                                                                                    |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 研修全体を通じて消防用語がでてきますが、消防関係者以外の者には、すぐには理解しづらいと感じました。                                                     |
| 2   | この研修でのオフサイトでの指揮、多重発災時対応の指揮訓練（演習）ができ、大変有意義でした。来年度での開催を希望します。                                           |
| 3   | 今回のような研修（特に演習）に関しては今までに全く経験したものではなく、殆ど動くことが出来なかったが、講師の方々の説明は非常に解りやすく内容に関しては理解することができ多くの知識を持ち帰ることができた。 |
| 4   | 本講義は、原子力災害にも共通するのでつづけて欲しい。                                                                            |
| 5   | チーム（隊）が1つの目標に向かって行動する際、チーム全員が同じ思いを持ち行動することで、目標を達成できることを学んだ。                                           |
| 6   | 会社に戻って本研修の受講が有意義であることを伝えたい。                                                                           |
| 7   | 講師の方々が非常に熱意をもって指導して頂ける事に本研修の素晴らしい点があると思うので、是非また参加したいし、職場の同僚にも参加を進めたい。                                 |
| 8   | 私の事業所では、非常時対応の要員育成についての制度が存在していないので、出前で本研修を定期開催していただくことは出来ないものかと思った。                                  |
| 9   | 今後も社内の人に受講してもらい、今後の活動に役立ててもらいたい。                                                                      |
| 1 0 | 今までの研修と違い、決められたことをするのではなく状況に応じた対応であり、非常に学ぶべきことが多くありました。                                               |

3) 原子力事業者の協力企業社員

|   | 研修全般についての意見・感想・要望等                                                                                                                                    |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 出来れば敦賀での開催回数を多くしていただき、電気事業者だけでなく、多くの協力会社の方にも参加してもらいたい。良い汗をかきました。                                                                                      |
| 2 | 再処理施設では重大事故対応の確立が最重要課題であり、ERC 研修内容は、効果的なカリキュラムであると感じた。一方で、本研修の参加案内だけを見る段階では、そこまで効果的な研修という意識を持てなかった事は反省点である。今後も、関係部署においては、継続して研修を受講するように、アナウンスしてはと感じる。 |
| 3 | 消防用のトレーニングだけではなく、色々な業種用のトレーニングがあればもっと職場で活用出来ると思います。                                                                                                   |

4) 原子力設備機器メーカー社員

|   | 研修全般についての意見・感想・要望等                                                                                                   |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 研修内容/時間は適切であると思います。異業種交流という意味ではありませんが、私のような民間企業に勤める人間にとっては、研修内容が非常に新鮮であり、新しい“気づき”を得ることばかりでした。ぜひ今後とも、この研修を継続的に実施願います。 |

5) 地方自治体の行政職員

|   | 研修全般についての意見・感想・要望等                                                                                         |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 難題に立ち向かい解決に向けて動くには知識、経験をはじめ他にも様々なことが必要だと感じられた。難しい演習をやり抜くことでそういったことに気付くことができる良い研修だった。防災に携わる人は是非一度体感してほしい。   |
| 2 | 一般行政職です。なじみのない用語や言葉が多く、すんなり身に入ってこない感じがありました。ただ、理解しているかは別として、どの講師の方も話が聞き易く引き込まれました。全体的には大変良い研修でした。次もお願いします。 |
| 3 | 現場での消防対応をリアルに体験でき、重要な反省点等にも気づくことが出来やすい、素晴らしい内容だったと考えます。                                                    |
| 4 | 自治体職員では、普段経験できないような研修で、大変勉強になりました。消防の方は、普段から今回の研修のような緊張した空気で職務に専念されていることが分かりました。                           |
| 5 | 2日間という限られた時間であったが、貴重な経験をできたことが良かった。                                                                        |
| 6 | この2日間で、消防以外の方がかなりスキルアップしたことを目のあたりにし、これを是非消防職員に実施していただければかなりのレベルアップにつながると感じました。                             |
| 7 | 実災害を経験したことがないため、今日の研修と同じようなスピードで情報が入ってくるのか教えて頂けると幸甚です。                                                     |
| 8 | リーダーシップを発揮するうえで、必要なことを学んだ。                                                                                 |
| 9 | 実践訓練ではその気づきが良かった点に変わり、反省点が少なくなったので実のある有益な訓練となった。                                                           |

6) 消防機関の職員

|    | 研修全般についての意見・感想・要望等                                                                                      |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 具体的な手法で指揮能力を高める研修は、少ないので、今後ぜひとも毎年開催していただきたい。研修場所については、全国の原発立地市町村消防（15）を中心に原子力発電所における緊急時対応能力を向上していただきたい。 |
| 2  | 発電所には、消防隊が整備されており、今回の研修に参加していただけると、顔の見える関係が築けて、現場活動がより良いものになると考えます。                                     |
| 3  | 原電での対応など初めて聞く話もあったので、チームは混成で引き続きやっていただくことが良いと思いました。                                                     |
| 4  | 今後、隊を運用していく上で学んだことを職場で活かして、組織力を上げていきたいと思います。                                                            |
| 5  | 今回の研修の内容を持ち帰り、現職場においても普段から良いチームワークを作り、安全に活動出来るようにしたいと思います。                                              |
| 6  | 「脳に汗かき」のコンセプトのとおり、普段所属の訓練では体験することが出来ない経験ができました。                                                         |
| 7  | 今回の研修で、伝達方法や各機関との連携活動の重要性について改めて気付かされました。                                                               |
| 8  | 異常心理の中で落ち着いて冷静な判断をする難しさを改めて痛感した。今後もこのような研修があれば是非多くの人と参加したいです。                                           |
| 9  | 他の行政や機関と同じ講習を受けられた事は「共通認識」と言う事ではすごく良いと感じた。                                                              |
| 10 | カリキュラムは、大変勉強になり、訓練の繰り返しの重要性が身に染みて分かりました。                                                                |
| 11 | 講義内容は、消防内容がメインであり、電力会社、行政の方々には大変なご苦勞であったと思いますが、消防活動の理解をしていただけたのではないかと思います。                              |
| 12 | すごく勉強になる研修であったけど、内容が濃いので修得するのには時間内ではできなかった。職場に持ち帰って訓練をしたいです。                                            |
| 13 | 各講師の講習は、とても内容が濃く、実技トレーニングでは、現役の消防士にも、事業所職員と同様に親切丁寧に指導して頂きました。                                           |
| 14 | 幹部、末端に関わらず、マネジメントには、その範囲内すべてのことが出来ないとう上手に進行できないと感じた。                                                    |
| 15 | 消防だけでなく原発職員の方と一緒に訓練できたことが大きかった。互いの職務についても認識できた。今後もより共有できる体制を築いていきたい。                                    |
| 16 | 原子力の講習という事で、あまり乗り気ではなかったが、実際はとても勉強になり、受講できたことが、自分にとって非常にプラスになったと感じています。                                 |
| 17 | 研修内容、研修時間ちょうど良いと感じます。講師もわかりやすく楽しく研修が受講出来ました。                                                            |
| 18 | 非常に有意義な内容であったため、上層部職員にも理解していただく場所（機会）を設けると更によいと感じました。                                                   |
| 19 | 原子力所在市町、各地でこの研修が開催され各人の意識が高まる事を望みます。                                                                    |
| 20 | 2日間充実した研修であった、トレーニング中心の講義であったが、所属ではなかなか実地できないことであったため、所属に戻って訓練にいかしたいと思った。                               |
| 21 | 業務上、経験していることではあったが、改めて学ぶ事により多くの気づきがあった。また他機関との方と実地することで様々な考えがあることを認識できた。                                |

## 5 本事業の今後について～当センターの自主事業「ISAD 研修」を開催します～

この研修は、オンサイトとオフサイトの両者が同じテーブルに着いて共に学ぶことができる我が国では他に例を見ない研修であり、委託元の資源エネルギー庁からも、またこれまでの受講生からも高く評価されています。

このため、できる限り早期に全国の原子力施設立地地域で本研修を行いたいと考え、下記のロードマップのとおり、中期的な計画を立てています。従いまして、各地域で実施する資源エネルギー庁受託事業としての ERC 研修は1年ごとに開催地を替えることになります。

そこで、本年度以降は、資源エネルギー庁受託事業の ERC 研修と並行して、同じ内容の研修を東京三鷹市の当センターで自主事業（「ISAD 研修」）として開催する予定です。

当センターにおきましては、これからも JANSI が開催する危機管理研修を実施していく予定であります。これは電力事業者の幹部社員の方に限定された研修であります。ERC 研修は、オフサイトの行政機関の方々が参加するという特長があります。

是非とも ISAD 研修に対しましても、事業所社員の皆様のほか関連企業の皆様のご参加についてもご配慮いただけますようお願い申し上げます。

### 【令和5年度～令和8年度のロードマップ】

| 実施項目                                                                           | 令和元年～3年度                               | 令和4年度           | 令和5年度                                                                                                                                                      | 令和6年度                 | 令和7年度                 | 令和8年度                 |
|--------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 資源エネルギー庁受託事業研修                                                                 | <b>研修体制構築モデル事業実施</b><br>・青森研修<br>・福井研修 | ・静岡研修<br>・島根研修  | ・宮城研修<br>・茨城研修<br>・新潟研修<br>・佐賀研修                                                                                                                           | 3～4ヶ所での開催を想定          | 3～4ヶ所での開催を想定          | 3～4ヶ所での開催を想定          |
| ③ISAD研修周知活動                                                                    |                                        |                 |                                                                                                                                                            |                       |                       |                       |
| 消防防災科学センター自主事業研修（予定）                                                           | ①ISAD研修に向けた検討（3年間）                     | ②ISAD研修開催に向けた活動 | <b>ISAD研修</b><br>ISAD研修とは、開催地を東京都三鷹市の（一財）消防防災科学センターとし、受講者は勤務地から出張して受講する研修。<br>受講対象者は原子力事業者社員、24道府県※の自治体職員等。<br>（※24道府県：原子力発電所立地の道県、UPZ圏内の府県と神奈川県、大阪府、岡山県。） | <b>ISAD研修</b><br>青森研修 | <b>ISAD研修</b><br>青森研修 | <b>ISAD研修</b><br>青森研修 |
| 青森研修とは、日本原燃（株）様からの受託を想定した研修。<br>開催場所は日本原燃（株）の施設内。<br>受講対象者は日本原燃（株）の社員と関係会社を想定。 |                                        |                 |                                                                                                                                                            |                       |                       |                       |